

The background of the page features a stylized, light blue DNA double helix structure that spirals upwards from the bottom left towards the top right. The helix is composed of thin, semi-transparent lines, giving it a futuristic and scientific appearance. The overall color palette is a range of light blues and whites, creating a clean and professional look.

MediBic

株式会社メディビックグループ

第9期 報告書 2008.1.1 ◆ 2008.12.31

証券コード：2369

医薬メーカー向け事業と個人向け事業の双方から、 “個の医療”の実現をめざします。

近年、「PGx（ファーマコゲノミクス）」、すなわち、「遺伝子情報に基づく個人ごとの医薬品の効果や副作用の発生状況の違いなどに関する研究」の進展により、個人ごとの体質に合わせた、効能に優れて副作用の少ない医療・製薬技術が急激に進歩しつつあります。しかし、こうした“個の医療”の進歩は、欧米が中心であり、日本国内やアジアでは、未だ普及の途上にあるのが現状です。

当社グループは、PGx分野におけるグローバルな情報収集力と、高度な評価技術を基盤として、日本やアジアにおいても、人々が個々の体質に合った医薬品や健康管理支援サービスを享受し、豊かな人生を過ごせるような環境づくりに貢献することをめざしています。

こうした企業方針のもと、医薬メーカーに向けた「バイオマーカー創薬支援事業」として、コンサルティングからデータ解析、システム開発、新薬申請の補助業務など、多様なソリューションサービスを展開してきました。一方、個人向けサービスとしては、遺伝子検査技術を基盤とした健康管理支援サービスとして、2008年5月より「DNAプラ



個人に適した医療の実現へ。

代表取締役社長 橋本 康弘

イベントバンク」サービスを開始しました。

今後もこれらの事業を軸に、テーラーメイド創薬の実現、ならびに個人の体質に合った健康管理支援を推進する新サービスを展開し、収益機会の拡大を図っていきます。

「事業再生プラン2009」のもと、 収益性の向上に努めます。

2008年12月期は、当社グループが2007年6月に発表した「事業再構築プラン(新生MediBIC Group 2007)」の最終年度でしたが、遺憾ながら、当初のプランどおりに事業を推進できませんでした。そこで、新たに2009年12月期以降のプランとして「事業再生プラン2009」を発表しました。

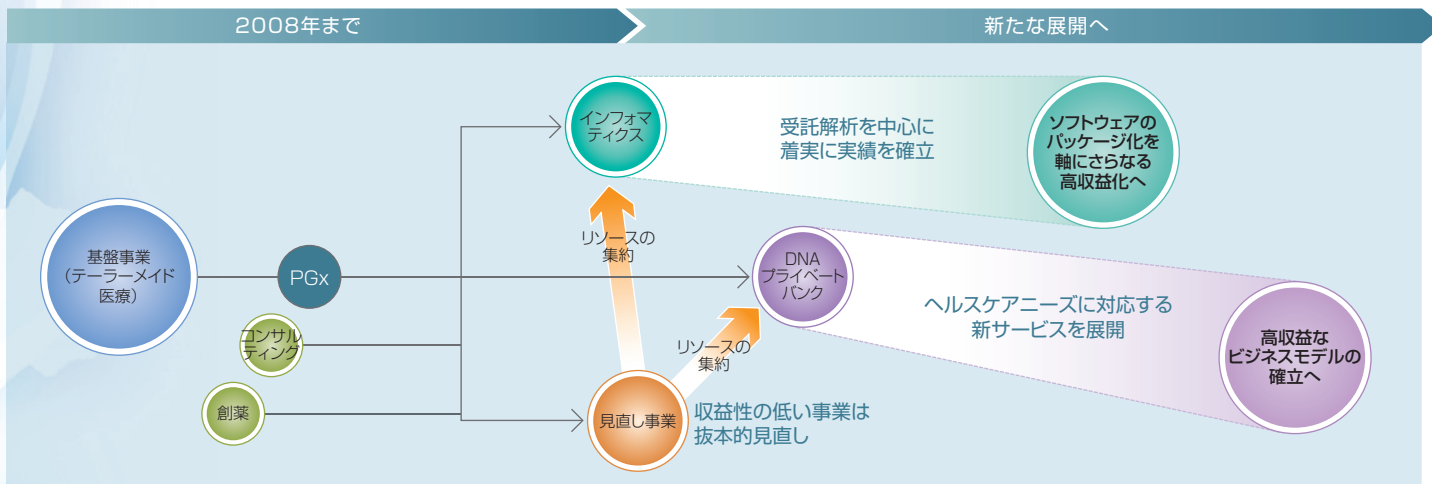
このプランでは、当社グループの基盤技術であるPGx技術を軸に、創業理念である“個の医療”の実現に関わる事業をはじめ、より収益性の高い事業に経営リソースを集中することを謳っています。また、投資

育成事業に関しては、管理体制を強化し、積極的な活動により収益性を高めていく方針を掲げています。

具体的な成長戦略としては、短期的には、事業として確立してきたインフォマティクス領域のパッケージソフトウェアの販売(→P8コラム参照)や、DNAプライベートバンクサービスの本格展開(→P3からの対談を参照)に注力します。中長期的には、バイオマーカーを用いた診断方法により、副作用のない医療の実現や予防医療の発展に貢献していくことで、収益性を高めていきます。2008年には、(株)メディックファーマと米国NASDAQ上場企業であるThreshold Pharmaceutical Inc. との間で共同開発した抗がん剤Glufosfamideの国内第1相臨床試験が終了し安全性、用量などのほか、特定のがん治療に大きく貢献する可能性があるとの評価を得ており、今後の開発に期待が寄せられています。

その一方で、経営面では、実効性の高い内部統制の仕組みづくりを最重要課題の一つと捉え、当社及びグループ会社を対象とした監査の実施や、諸規程の見直し、コンプライアンスの徹底などに努めています。

基盤事業の展開



健康管理の新しいカタチ ——DNAプライベートバンクの可能性。

「DNAプライベートバンク」会員 佐藤 浩司 様 × 株式会社メディックグループ 代表取締役社長 橋本 康弘

人々の健康に対する意識が高まるなか、メディックは個人向けのテラーメイド健康支援サービス「DNAプライベートバンク」をスタートさせました。このサービスは、お客さまのDNAをお預かりして、一人ひとりの疾病リスクや医薬品の有効性などを遺伝子レベルで把握し、その結果をもとにお客様からの問い合わせに答えるかたちで、メディック社が健康を維持するための細やかな情報を提供し、さらに提携クリニックの経験豊富な医師からは医療に基づくより細やかなアドバイスが行われるというもの。今回は、このサービスの会員でもある佐藤氏をお招きし、実際にご利用いただいた感想も含め、このサービスの有用性について当社社長と対談いただきました。

将来的な健康リスクを把握することで、
安心感を得られるのが魅力。

橋本 まずは、「DNAプライベートバンク」をご利用いただいた率直なご感想をお聞かせいただけますか？

佐藤 そうですね、初回来院での採血が数分間だけで済みましたので、少し驚きました。その反面、検査結果が出た後のカウンセ

リングでは、実に丁寧にアドバイスをいただきました。

橋本 受診者の負担を少なくしたいと考えていますので、そう言っていたら嬉しいですね。診断の結果はいかがでしたか？

佐藤 総評としては「まれに見る健康体だ」と言われまして、一安心しました。ただ、心筋梗塞のリスクを指摘され、毎日のコーヒーを控えめにするようアドバイスを受けました。また、自覚はなかったのですが、実は肥満になりやすい体質だということも分かりまし

たので、アドバイスに従って、ジムに行く回数を増やしたりしているのですが、おかげで体調が良くなったと自覚しています。

「DNAプライベートバンク」会員 佐藤 浩司 様

PROFILE

1962年生まれ。経営コンサルティング会社、ウェブギャラリー(株)の代表取締役社長。多忙な日々を送る一方で、スポーツジムに通って有酸素運動を習慣づけ、年に2回人間ドックを受診するなど、健康管理の意識は高い。喫煙もせず、飲酒もたしなむ程度。コーヒーを愛飲していたが、受診を機に日一杯程度に減らしている。



橋本 深刻な健康リスクが無くて何よりです。実は、佐藤さんの検査結果は、私たちも知らされていなかったんですよ。というのも、DNAというのは究極の個人情報ですから、私たちも結果については検査番号でしか知り得ません。この番号とお名前を特定できるのは受信者とドクターのみです。私たちは、受診者ご本人からご心配な点を伺い、その内容に応じてアドバイスをさせて頂いています。

佐藤 そうした配慮は非常にありがたいですね。

橋本 診断を受けたメリットは、どのようにお考えでしょうか？

佐藤 人間ドックなどは、現在の健康状況を把握する上で有効ですが、将来の可能性までは分かりません。その点、「DNAプライベートバンク」は将来的なリスクを把握し、そのリスクを軽減するための方策を講じるもの。

それによって、病気になるのではないかという不安を軽減し、健康状態を改善するとともに、安心感を得ることもできる。それが最大のメリットではないでしょうか。



より多くの方の健康管理に役立てていただくために、現状の課題を見つめ、さらなる改善に取り組んでいきたい。

橋本 佐藤さんが、ご自身の健康に気を配るようになったのは、何かきっかけがあったのでしょうか？

佐藤 もともと健康に関して敏感だったのですが、数年前に、同年代の友人が胃ガンで亡くなりました。私にも家族がいますので、残された家族の姿を見ていると他人事には思えず「常に健康には気を配らなくては」と強く思うようになりました。

橋本 ガンなどは特に早期発見が大切といわれますが、そのリスクの程度を知ることで、より効率的、効果的な検査を受けることができます。ご本人はもちろん、ご家族のためにも、一人でも多くの方にこのサービスをライフプランニングという位置づけで役立てていただきたいですね。



佐藤 全く同感です。日本では、まだこうしたテーラーメイドの医療サービスが認知されていませんが、将来的には、まさに公共サービスのようになり、誰もが利用できるようになってもらいたい。私も経験者の一人として、このサービスの有難みを語ることで、その必要性を訴えるお手伝いができれば、と考えています。

株式会社メディックグループ 代表取締役社長 **橋本 康弘**

PROFILE

米ハーバード大学医学部への留学を経て、米ペンシルバニア大学にて助教授、准教授として研究室を運営。以降、米シンテックス社の日本研究所所長、米ロシュ社のバイオ事業部長、グラクソヘルカム免疫研究所の分子生物研究部門と遺伝子部門の部長を歴任し、2000年に北海道大学の客員教授に就任。遺伝子解析の研究を行うと同時に(株)メディック(現：(株)メディックグループ)を設立し代表取締役に就任。

橋本 ありがとうございます。幸い、当社の技術力については、各方面から高い評価をいただいております。健康意識の高まりもあって、最近ではメディアに取り上げて頂く機会も増えてきています。

佐藤 私も最近、テレビの健康情報番組でこのサービスが紹介されているのを拝見しました。こうした機会を存分に活かして、世間に浸透させていって欲しいですね。

橋本 露出度が高まっているのは確かですが、サービスを世間に普及させていくためには、「価格面の整備」と「サービスの充実」が不可欠だと考えています。価格については、保険の枠組みでの診療ですと、たとえば問診が10分以内に制限されるなど、サービスが不十分になってしまう可能性が高い。このため、あえて自由診療で提供し、枠にとらわれず、価値のあるサービスを提供していきたいと考えています。



佐藤 なるほど。一方のサービスの充実というのは？

橋本 サービスの内容については、現状の検査メニューに加え、ご要望の多い疾病リスクの検査を追加していく予定です。また、検査後の具体的なフォローアップを充実させるために、提携クリニックの増加や、連携の強化について話し合いを進めています。

佐藤 サービス面では、一つ要望があるのですが、疾病のリスクを判定いただくだけでなく、リスクを低減するための日々の食事に関する指導などもあれば、ありがたいですね。

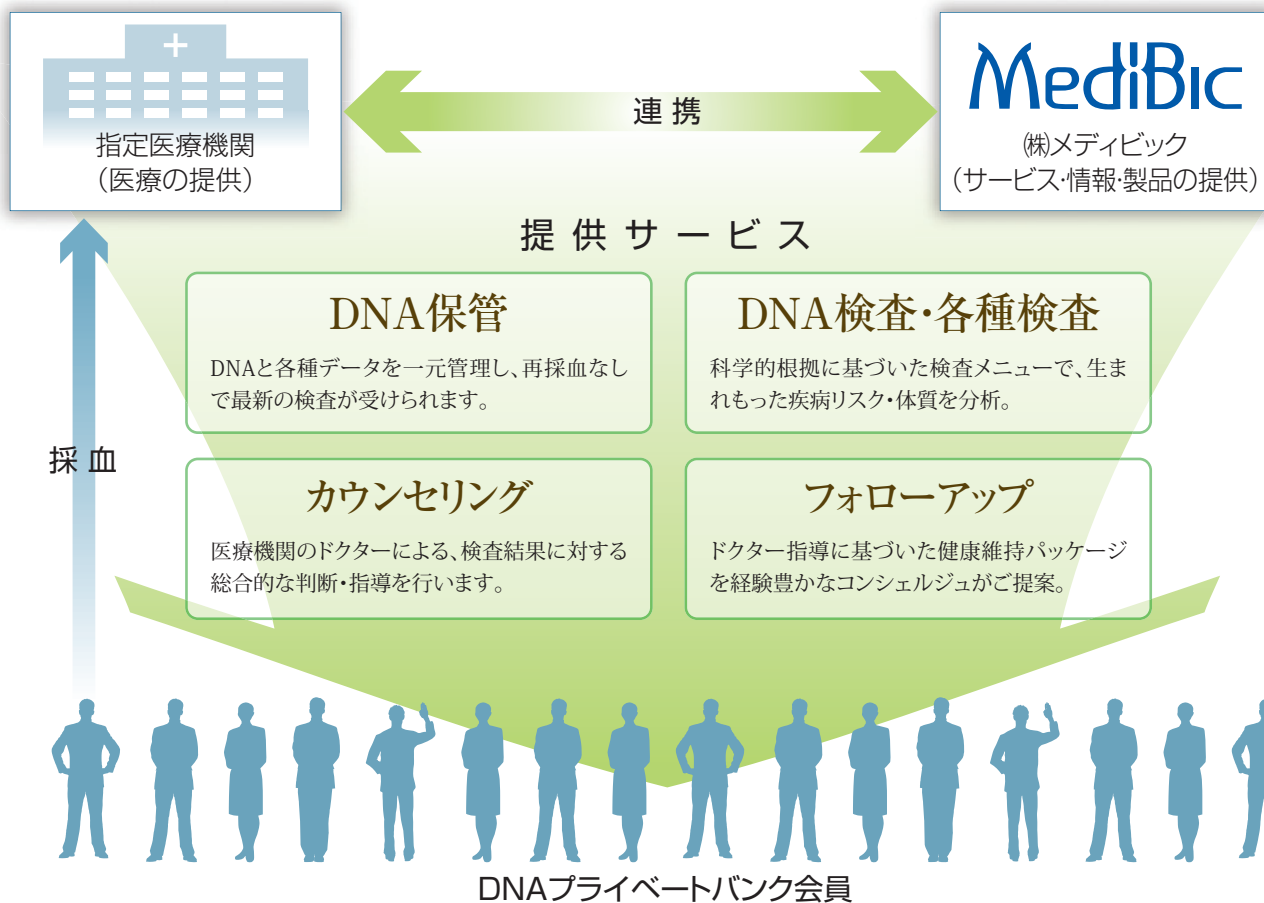
橋本 現時点でも「繊維質を多く取ってください」とか、「色付きの野菜を多く摂ってください」とか、大枠での食事指導は行っていますが、まだまだ不十分です。今後は栄養士と連携し、栄養・食事についてさらに有効な提案ができるよう、準備を進めているところです。

佐藤 それはありがたいですね。今後も引き続き、きめ細かなアドバイスがいただけると期待しています。

橋本 ご期待に応えられるよう頑張ります。本日はどうもありがとうございました。



「DNAプライベートバンク」の概要



サービスメニュー

DNA検査/カウンセリング

・基本検査

1. 大腸ガン
2. 前立腺ガンor乳ガン
3. 糖尿病
4. 血栓症
5. 黄斑変性症
6. アルツハイマー
7. 薬の副作用

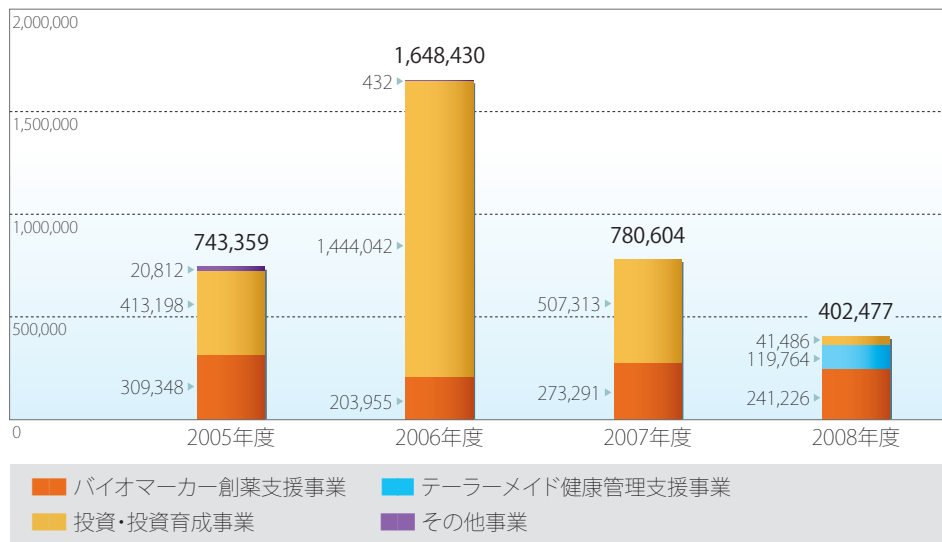
・オプション検査

1. 腰痛症
2. 肥満
3. アルコール反応
4. 薄毛
5. スポーツ体質

フォローアップ

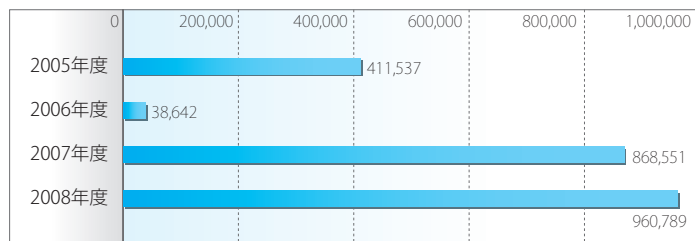
- ・食事、栄養指導
- ・運動指導
- ・電話相談
- ・検査データ管理(DNA・血液)

セグメント別売上高の推移 (単位:千円)

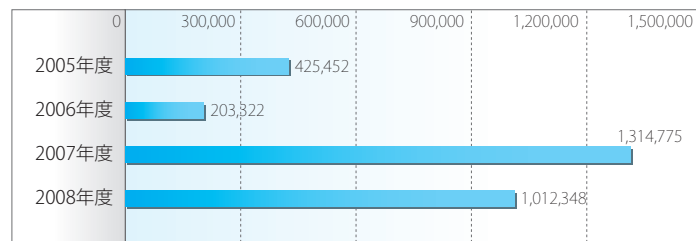


当連結会計年度の売上高は、前年同期より378,127千円減の402,477千円となりました。こちらの主な要因としては、これまでグループの投資・投資育成事業を担っておりました(株)Asia Private Equity Capitalが持分法適用関連会社に異動し、平成20年10月1日に再度子会社化するまでの間、投資・投資育成事業の売上計上がなかったことによります。グループとして注力しております基盤事業のバイオマーカー創薬支援事業、及び当連結会計年度より新設致しましたテーラーメイド健康管理支援事業におきましては、多くの案件を獲得し順調に推移しております。

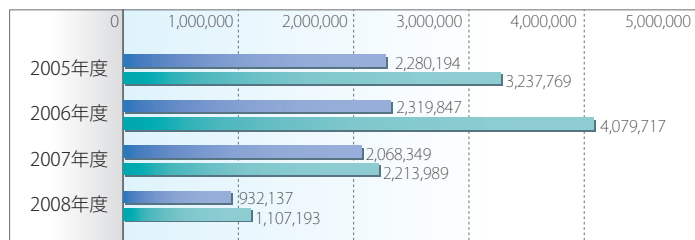
経常損失 (単位:千円)



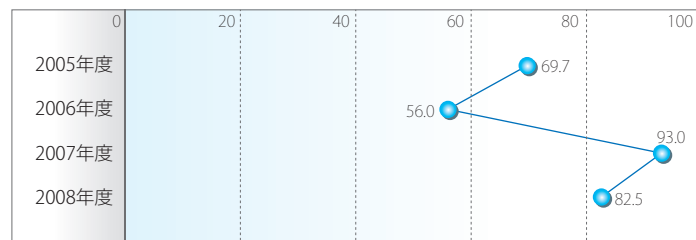
当期純損失 (単位:千円)



純資産/総資産 (単位:千円)



自己資本比率 (単位:%)



バイオマーカー創薬支援事業

バイオマーカー創薬支援事業については、ファーマコゲノミクス (PGx) 試験支援サービス、情報処理システム開発及びRNA増幅試薬の販売等、多岐にわたる受注を順調に獲得しています。平成20年3月14日に日本製薬工業協会より「医薬品の臨床試験におけるPGx実施に際し考慮すべき事項(暫定版)」が公表されて、環境整備も進みつつあり、創薬の開発過程におけるPGx試験の重要性は高まってきています。このような環境のもと、当社の基盤事業であるPGx事業は、試験の解析計画を含めたコンサルティングをはじめとした様々なソリューションを提供できることを強みとしています。当連結会計年度においては、大手製薬メーカーを中心に同一プロジェクトにおける継続受注のほか、新規プロジェクトの受注も拡大しています。また、解析技術、検体匿名化技術、配合設計技術などで蓄積してきたインフォマティクス領域では、高度な受託解析及びシステム開発がクライアントの好評価を得ており、大手製薬メーカー、

飲料メーカー、研究機関など順調に受託を獲得しています。

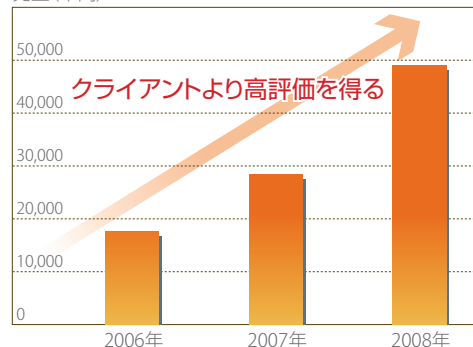
また、将来PGx解析の大きな技術の中心となるRNA解析に必須のRNA増幅試薬の国内販売も行ってきました。当連結会計年度においては、

研究機関を中心に評価され受注が拡大しました。

以上の結果、バイオマーカー創薬支援事業の連結売上高は241,226千円となりました。

インフォマティクス事業売上推移

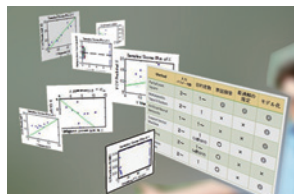
売上(千円)



TOPICS

評価の高いデータ解析技術に基づいたパッケージ製品で、高収益な事業モデルを追求。

当社グループは、製薬メーカーなどの研究機関に対して、各種のデータ解析技術を駆使した受託サービスを展開してきました。これらのサービスのうち、汎用性の高いものをパッケージシステムとして製品化することで、より収益効率の高い事業モデルを構築できる



ものと考えています。すでに、右記のようなシステムがパッケージ化されており、今後も当社の培ってきた高度な技術をパッケージ化することで、収益性を高めていきます。

パッケージシステム例

● 匿名化システム

PGxにおける遺伝子情報管理から開発された匿名化システムは、強固な暗号化技術(Blowfish法)を用いたセキュリティー機能および運用に合わせて設定可能な自由度の高さが特徴で、製薬メーカーにおける臨床試験や市販後調査での使用を中心に導入実績があります。

● 配合設計データベース(MDSS)

研究開発における[原料][プロセス][工程][評価]といった各データを一元管理することにより、プロジェクトの管理や、各種設定の構築を高度に効率化するとともにデータの集約管理を実現するシステム。

さらに、重回帰分析によるシミュレータで予測モデルを構築し、各種研究開発のさらなる効率化を可能にするパッケージの追加リリースを予定しています。

その他、検体管理システムなどのパッケージ化が順次進んでいます。

テラーメイド健康管理支援事業

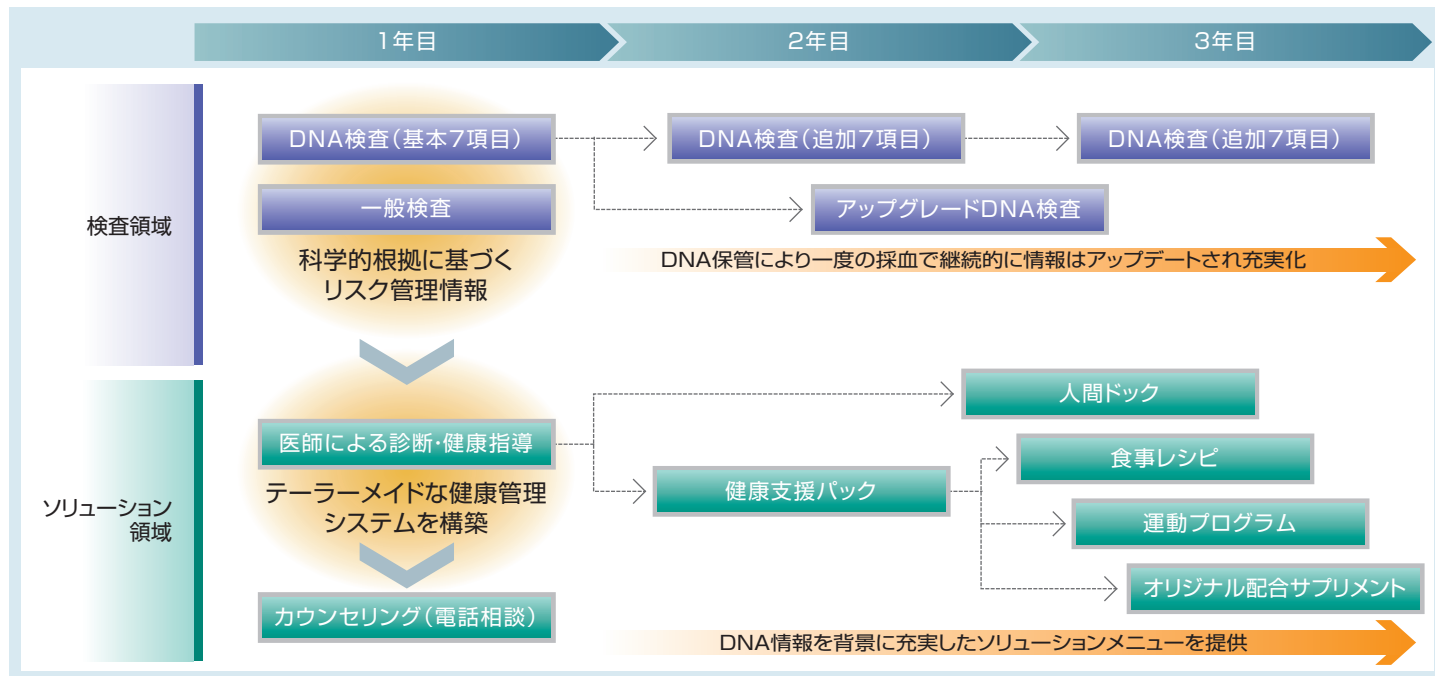
PGx技術をベースとした、個人を対象とする健康・医療市場における新サービスの提供を開始したことから、当連結会計年度より、テラーメイド健康管理支援事業をセグメント別事業区分に新設しています。DNA検査により個人の体質を特定し、個々人に合った健康管理を提供する「DNAプライベートバンク」は、当社のPGx事業において蓄積されたDNA解析技術、及び科学的なエビデンスに基づくDNA検査により、個人の遺伝的な背景を特定し、その先天的なリスクに応じた健康管理、ライフプランニングをお手伝いするサービスとして平成20年5月よりスタートしました。これまで主にメディアへの露出をはじめ

とした広報活動に力を入れるとともに、初期会員からのフィードバックやマーケティング活動から、より顧客ニーズに合ったサービス内容及び専門家などのネットワーク構築を充実させてきました。

また、健康支援サービスの一環として展開している健康関連商品の販売も、健康維持についての市場の関心の高まりを背景として好調に推移しています。

以上の結果、テラーメイド健康管理支援事業の連結売上高は、119,764千円となりました。

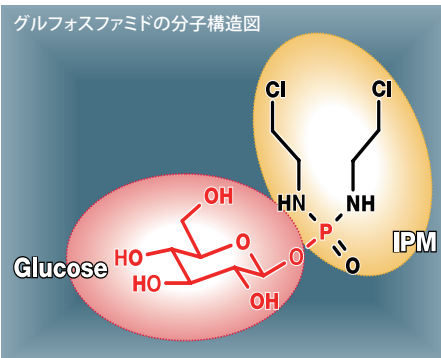
「DNAプライベートバンク」の今後の展開



創薬その他事業

創薬事業においては、抗がん剤Glufosfamideの臨床開発を中心に事業を推進しています。当連結会計年度においては、平成19年1月に開始した国内第Ⅰ相臨床試験が終了し、安全性については海外臨床試験にて発現したものと比較して差はみられませんでした。また、用量も国外で報告されているものと同用量と評価され、日本人の薬物動態につきましても、海外での第Ⅰ相臨床試験データとほぼ同じ評価結果であることが確認されました。抗腫瘍効果については、試験結果からGlufosfamideが胆道がん、すい臓がん等に効果が期待される薬剤であることが示唆されました。現在、第Ⅱ相臨床試験に向けて、新規開発パートナーとの共同開発、当該化合物のライセンスアウト、あるいは当該事業の売却・譲渡等についての検討を行っています。しかしながら、創薬事業は研究開

発段階にあるため、当連結会計年度での売上計上はありません。また、投資・投資育成事業においては、営業投資有価証券の売却及びファンド管理運営に関する売上高41,486千円を計上しています。その他事業については、特記すべき当連結会計年度における売上計上はありません。



次期の見通し

今後の見通しについては、引き続き基盤技術であるテーラーメイド医療を中心に事業展開していく方針です。バイオマーカー創薬事業においては、国内外製薬企業やバイオ関連企業を対象に、PGx試験支援のきめ細かいトータルソリューションサービスとして展開し、一層の受注拡大に努めます。また、関連するシステム開発についてはこれまでのノウハウをパッケージ化し、より汎用性の高い製品の拡販を行います。

テーラーメイド健康管理支援事業については、テーラーメイド医療を基盤としたDNAプライベートバンクサービスの本格的な展開をはじめ、健康関連商品のさらなる拡販に努め、収益機会の拡大を図っていきます。

投資・投資育成事業については、短期的には資産売却によりキャッシュ化を進め、財務基盤の強化に努めることとし、中長期的には、ビジネスチャンスの獲得に資するものとして位置づけていきます。以上より、次期の連結業績予想については、連結売上高549百万円、営業損失285百万円、経常損失285百万円、当期純損失275百万円を見込んでいます。

連結貸借対照表

単位:千円、単位未満切捨

科目	当期末	前期末
資産の部		
流動資産	899,487	973,839
現金及び預金	286,783	302,924
受取手形及び売掛金	61,697	78,699
営業投資有価証券	598,026	—
投資損失引当金	△136,760	—
たな卸資産	44,139	14,484
前払費用	7,281	10,000
関係会社短期貸付金	—	460,153
未収消費税等	3,817	3,931
その他	34,500	103,646
固定資産	207,706	1,240,150
有形固定資産	19,319	20,084
無形固定資産	3,695	4,648
投資その他の資産	184,692	1,215,417
投資有価証券	33,321	54,638
関係会社株式	56,805	56,805
出資金	16,239	—
関係会社出資金	42,802	—
長期貸付金	6,845	7,224
関係会社長期貸付金	—	1,037,347
差入敷金・保証金	29,962	58,266
その他	2,250	4,670
貸倒引当金	△ 3,535	△ 3,535
資産合計	1,107,193	2,213,989

科目	当期末	前期末
負債の部		
流動負債	173,620	137,304
買掛金	21,906	43,337
未払費用	41,169	28,327
未払法人税等	7,133	8,271
未払消費税等	2,023	2,602
前受金	81,112	32,847
預り金	2,928	2,471
受注損失引当金	13,285	17,733
その他	4,060	1,714
固定負債	1,436	8,335
長期借入金	—	5,552
長期前受金	—	2,783
繰延税金負債	1,436	—
負債合計	175,056	145,639
純資産の部		
株主資本	1,062,074	2,074,422
資本金	2,058,391	2,058,391
資本剰余金	2,591,588	2,591,588
利益剰余金	△ 3,587,905	△ 2,575,502
自己株式	—	△ 55
評価・換算差額等	△ 148,223	△ 15,072
新株予約権	14,759	9,000
少数株主持分	3,525	—
純資産合計	932,137	2,068,349
負債純資産合計	1,107,193	2,213,989

連結損益計算書

単位:千円、単位未満切捨

科 目	当期末	前期末
売上高	402,477	780,604
売上原価	239,619	735,436
売上総利益	162,857	45,168
販売費及び一般管理費	540,759	871,114
営業損失	377,901	825,946
営業外収益	31,041	19,243
営業外費用	613,929	61,849
経常損失	960,789	868,551
特別利益	4,448	1,065
特別損失	55,859	445,780
税金等調整前当期純損失	1,012,200	1,313,266
法人税、住民税及び事業税	1,809	1,850
少数株主損失	1,662	341
当期純損失	1,012,348	1,314,775

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円、単位未満切捨

科 目	当期末	前期末
営業活動によるキャッシュ・フロー	△277,774	△ 802,440
投資活動によるキャッシュ・フロー	264,652	295,259
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,336	△ 565,096
現金及び現金同等物に係る換算差額	315	△ 1,320
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△16,142	△ 1,073,599
現金及び現金同等物の期首残高	302,924	1,681,233
連結除外による現金及び現金同等物の減少額	—	△ 304,709
現金及び現金同等物の期末残高	286,783	302,924

連結株主資本等変動計算書

単位:千円、単位未満切捨

	株主資本					評価・換算差額等		新株予約権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計			
平成19年12月31日残高	2,058,391	2,591,588	△2,575,502	△55	2,074,422	△15,072	△15,072	9,000	—	2,068,349
連結会計年度中の変動額										
当期純損失			△1,012,348		△1,012,348					△1,012,348
自己株式の消却			△55	55	—					—
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					—	△133,150	△133,150	5,759	3,525	△123,864
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△1,012,403	55	△1,012,348	△133,150	△133,150	5,759	3,525	△1,136,212
平成20年12月31日残高	2,058,391	2,591,588	△3,587,905	—	1,062,074	△148,223	△148,223	14,759	3,525	932,137

会社概要

設立	2000年2月17日
資本金	20億5,839万円
所在地	〒105-0003 東京都港区西新橋2-11-6 ニュー西新橋ビル5F
社員数(連結)	38名(常勤役員を含む)
主要取引銀行	株式会社三菱東京UFJ銀行 新橋駅前支店 株式会社三井住友銀行 日比谷支店 株式会社三菱東京UFJ銀行 新橋支店
グループ会社	(株)メディビック (株)メディビックファーマ (株)サイトクオリティ (株)Asia Private Equity Capital MediBIC Life Sciences, Inc. (U.S.A.)

取締役 (2009年3月27日現在)	代表取締役社長	橋本 康弘
	取締役副社長	神田 毅
	取締役	ジョン・フー
	取締役	マイケル・チャン

監査役 (2009年3月27日現在)	常勤監査役	遠藤 宏
	監査役	江夏 健一
	監査役	大島 可羊子

ホームページのご紹介

<http://www.medibic.com/ir/index.html>

当社はIR活動の一環として、ホームページによる情報発信の充実に努めています。詳細な事業概要、ビジネスモデルの解説、財務データの適時掲載の他、会社説明会などのIRイベント開催についてもお知らせしています。ぜひアクセスいただき、ご活用をお願いいたします。



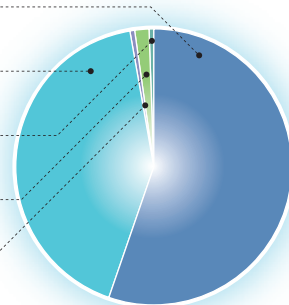
株式の概況 (2008年12月31日現在)

株式概況

発行可能株式総数	350,000株
発行済株式の総数	176,242株
株主数	8,614名

所有者別株式分布状況

個人・その他	97,651株 (55.41%)
外国法人等	74,125株 (42.06%)
事業会社・その他法人	797株 (0.45%)
証券会社	2,864株 (1.63%)
金融機関	805株 (0.46%)



大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ジェネレーションジャパンマスター ファンドケイマンエルピー	67,000株	(38.02%)
橋本 康弘	22,240株	(12.62%)
シービーホンコンコリアセキュリティーズ デポジトリートレード	2,822株	(1.60%)
岡田 興則	2,428株	(1.37%)
泉 辰男	2,020株	(1.14%)
藤井 衛	1,686株	(0.95%)
野村證券株式会社	1,526株	(0.86%)
バンクオブニューヨークジーシーエム クライアントアカウントジェイピーアール ディアイエスジーエフエーエイシー	1,038株	(0.58%)
青柳 満喜	1,000株	(0.56%)
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	906株	(0.51%)

あなたは皮下脂肪派？内臓脂肪派？

二種類の脂肪型

メタボ検診での腹囲の基準「85cm」は、マスコミにも広く取り上げられており、ご存知の方も多いと思います。なぜ、腹囲のサイズがメタボ検診の基準になるかというと、ぽっこり出たおなかの下には内臓脂肪がついているケースが多いからです。

内臓脂肪が多くの生活習慣病を引き起こすことは科学的に明らかにされています。しかし、だからといって、腹囲85cm以上の方がすべて生活習慣病になるとは言い切れません。というのも、腹部への脂肪のつき方には、内臓にたまる「内臓脂肪型」と、皮膚の下にたまる「皮下脂肪型」の2種類があるからです。

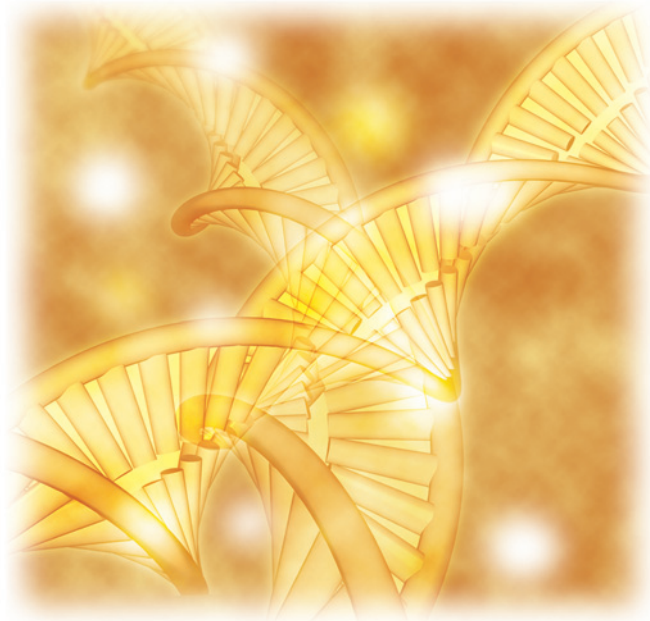
実際、皆さんの周囲にも、腹囲85cm以上のかかり肥った人でも、人間ドックでの検査結果に全く悪いところの見つからない人がいると思います。見た目はメタボの象徴なのに、検査してみると健康そのもの、という方は、皮下脂肪が多いだけで内臓脂肪は少ないのかもしれない。

皮下脂肪は大丈夫

最近の研究によって、皮下脂肪が健康に与える影響は、内臓脂肪に比べて少ないことが分かってきました。つまり、皮下脂肪が多くて内臓脂肪は少ないタイプの方は、肥っていても生活習慣病になりにくのです。たとえば、欧米では肥満体の方々が珍しくありませんが、彼らが生活習慣病になりやすいかというと、そうでもないらしいのです。というのも、欧米の肥満体の多くが「皮

下脂肪型」だからとされています。

ここまで読んできて、「じゃあ、私はどっちの肥満だろう?」と思った方も少なくないでしょう。そんな方のために、個人の肥満型を調べる方法をご紹介します。近年の科学技術の進歩によって、DNAを検査することによって、脂肪のつき方が「内臓脂肪型」か「皮下脂肪型」か、診断できるようになってきました。DNA検査で自分の肥満タイプを知ることができれば、生活習慣病のリスクを把握でき、よりよい健康管理につながります。メディビックでは、こうしたDNA検査を通じて、会員の方々に健康管理の支援を提供しています。



■ 株 主 メ モ

決算期	12月31日	<p>※ご注意</p> <p>1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。</p> <p>2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。</p> <p>3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。</p>
定時株主総会	3月中	
株主確定基準日	12月31日	
株式の売買単位	1株	
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	
特別口座の口座管理機関		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話 0120-232-711(通話料無料)	
公告の方法	電子公告(当社ホームページ http://www.medibic.com)。但し、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。	
証券コード	2369	

■ 当冊子についてのお問合せ先

株式会社メディビックグループ[®] 管理本部 IR/広報グループ

本社 / 〒105-0003 東京都港区西新橋2-11-6ニュー西新橋ビル5F TEL. 03-6744-2882

